

司法試験 8人が難関突破



2020年の司法試験結果が1月20日、法務省から発表され、専修大学法科大学院修了者から8人が合格した。

司法試験は新型コロナウイルス感染症の影響で試験日程が変更され、合格発表も例年より4カ月遅れとなった。

合格者は次の皆さん。(敬称略)

工藤萌美さん 榎本理恵さん
伊佐山哲郎さん 赤平孝太さん
小森彩乃さん 吉野大地さん
柏木奨愛さん 赤平孝太さん

「集中できたキャレール」小森さん

専大法学部卒業後、法科大学院に進まず、苦しい時期がありました。司法試験に合格した小森彩乃さんに話を聞いた。

専大法学部入学前から法曹に憧れ、1年次からエクステンションセンターの法律総合講座を受講しました。講師を務める現役の弁護士の方々に、基礎的な知識から実務的なことまで幅広く教えてもらい、とても勉強になりました。法学部の授業と合わせて、たくさん知識を身につけることができ、とても楽しい4年間でした。

ところが法科大学院進学後は、大学院進学後には、一人に寄り添える弁護士になりたかったです。

合格でき、ホッとしています。まだ将来については迷っています。が、ここからが本当のスタート。おどることなく、困っている一人一人に寄り添える弁護士になりたいです。

美(平31)▽赤平孝太(平31)▽伊佐山哲郎(平31)▽榎本理恵(令2)▽小森彩乃(令2)

開講25年目 エクステンションセンター「公務員試験講座」

仲間や講師の励ましが力に

国税専門官試験合格の前田麻瑚さん(文4)

公務員試験講座を受講し、今年度で25年目を迎えた。専任講師陣による計画的かつ合理的なシステムで合格まで徹底的にサポートする。

今年度は国家公務員採用総合職試験で過去最多の8人が最終合格を果たした。また、一般職試験では56人、専門職試験(法務省専門職員、国税専門官、労働基準監督官)では110人が最終合格。地方公務員でも例年以上に合格の声が届いている。



講座での取り組みを話す前田さん

公務員試験講座を受講し、今年度で25年目を迎えた。専任講師陣による計画的かつ合理的なシステムで合格まで徹底的にサポートする。

今年度は国家公務員採用総合職試験で過去最多の8人が最終合格を果たした。また、一般職試験では56人、専門職試験(法務省専門職員、国税専門官、労働基準監督官)では110人が最終合格。地方公務員でも例年以上に合格の声が届いている。

2年次で公務員に絞ることを決め、採用試験に必要な多くの科目の学習に取り組む。過去問題集を借りるなど「密」を避けて外出すること、気分をリフレッシュ。

公務員試験講座は、外

21年度講座 募集ガイダンス

公務員試験講座の2021年度募集ガイダンスは3月下旬に開催の予定です。ポータルまたは本学ホームページでご案内します。

公務員試験の本格的な学習は2年次からです。1年次に受講がで

就職だより

3年次生へ 今月から来月にかけて、企業研究・業界研究が一段と進むと思われま。進展状況はいかがでしょうか？

2月下旬に「内定者によるオンライントークライブ」を開催します。就職活動を終えた4年次生「インターン」の詳しいサポート

「ニュース専修」年間購読のご案内

「ニュース専修」をご愛読いただきありがとうございます。2021年度の年間購読者を募集しています。購読料は1000円(税込・郵送料含む)です。

※育友会員及び年会費納入済みの校友会員はお手続き不要です。

※本年3月に卒業される方には、5年間校友会からお送りいたします。

〒101-8425 (専用郵便番号) 千代田区神田神保町3-8 専修大学広報課

03-3265-5819 E-mail: koho@acc.senshu-u.ac.jp

計報

正村公宏氏(まさむら・きみひろ) 名誉教授・元経済学部教授

10月11日、88歳で死去。1968年から2002年まで在職。専門は経済政策。

グローバルフロアから発信

国コミュ・オンライン講座

12月18日、国際コミュニケーション学部の第3回オンラインレクチャーが開催された。10月から始まったこの課外レクチャーは、異文化交流の拠点として活用される神田キャンパス10号館のグローバルフロアから発信。同学部の教員が、授業とは異なる視点から、グローバル講師が、おたく文化について英語と日本語を併用して話した。

土屋昌明教授は「学生は自分が学んでいる科目の言語に偏りがちだが、いろいろな言葉や異文化に興味を持つことが大事。これからは語学力を生かして異文化の研究をしている研究者のレクチャーを発信するので視野を広げてほしい」と語った。

12月18日、国際コミュニケーション学部の第3回オンラインレクチャーが開催された。10月から始まったこの課外レクチャーは、異文化交流の拠点として活用される神田キャンパス10号館のグローバルフロアから発信。同学部の教員が、授業とは異なる視点から、グローバル講師が、おたく文化について英語と日本語を併用して話した。

土屋昌明教授は「学生は自分が学んでいる科目の言語に偏りがちだが、いろいろな言葉や異文化に興味を持つことが大事。これからは語学力を生かして異文化の研究をしている研究者のレクチャーを発信するので視野を広げてほしい」と語った。



講演するガルブレイス講師(左)と土屋教授

知の発信

科研費採択研究から



商学部教授 田島 真弓

国境を超え活躍するグローバル人材

大学院から25年間、台湾の大学で研究しました。台湾のグローバル企業や日系企業などには、日本の会社を定年退職した日本人がたくさんいて、コンサルタントとして活躍していました。20年ほど前の話です。日本の産業界が、台湾を含む東アジアへの技術移転に重要な役割を果たしていたのです。

今はこれと逆の現象がおきています。台湾や韓国でエリートといわれる新卒の学生が、日本での就職を希望し、それに合わせて、人材紹介会社が大きく成長しています。台湾は実力主義で給与水準は決して低い。労働環境が安定し、給与水準も高く社員教育がしっかりしている日本の企業に魅力を感じる若者が増えています。一方で日本の企業からすると、語学力のある海外の若者は即戦力として期待されます。現在

はコロナ禍で人の往来は止まっていますが、グローバルな流れは止められません。海外在住のままオンラインで日本の企業で働くこともできるし、優秀な人材をストックしてコロナが収束すれば正式に雇用することもできる。人材交流に関してはさまざまなやり方が考えられますので、今後の動向について特に注目しています。

研究では、東アジアで国境を超えて活躍するグローバル人材が、人材紹介会社をどのように活用しているのか、さらに人材紹介会社を通じて求職活動が近年増加した社会的要因を明らかにしていきます。

これからは各国でグローバル人材の競争戦は激しくなります。ともすれば実力主義に軸足を移そうとしている日本の企業や政府ですが、安定した日本の雇用の良さをもっとアピールしてもいいのではないのでしょうか。

ゼミでは社会問題をグローバルビジネスで解決しようというテーマに取り組んでいます。同じテーマを設定していた台湾の大学生と比べて、日本の学生は「社会のため」という思いが強い。高いポテンシャルをさらに伸ばしてほしいと思っています。

(たばた・まゆみ) 国立台湾大学大学院社会研究所博士課程修了。博士(社会学)。国立東華大学(台湾)、国立台北大学(同)で教鞭を執った。専門は国際経営、社会学。